

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月14日

事業所名 放課後等デイサービス リツケ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			指定基準に基づき利用定員に対して十分な訓練スペースを確保しています。	今後個別対応が充実できるようなスペースを考えている。
	2	職員の配置数は適切である	○			指定基準に基づき利用児童に対して十分な職員を配置している。	情報を求められる保護者様には開示していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		定期的に設備の点検を行っている。	今後配慮の必要のある児童を受け入れる場合、バリアフリー化に努める。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			週に1度、職員の会議を行い、振り返りと目標設定を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			日々の保護者とのやりとりからも意向をくみとり業務改善に繋げている。	定期的にアンケートを実施して業務改善に取り組むよう心がけていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページに自己評価表の結果を公開している。	会報を発行することを検討している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		形式的な第三者からの評価は受けていないが、他事業所からのアドバイスを積極的に取り入れ業務改善を行っている。	第三者の外部からの評価を検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			外部研修への参加、また事業所内研修で職員の資質の向上を行っている。	より良い社内研修、外部の研修に参加してもらう。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			利用前の保護者との面談や児童の様子をみてアセスメントを行い、個別の支援計画を作成して保護者と共有している。	今後も引き続き行っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			事業所独自のアセスメントシートを作成統一した評価でアセスメントを行っている。	支援を継続していく中で質の高いアセスメントのためのツールの改善を検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員全員で活動プログラム立案を月1の会議で行い、週ミーティングで細かい打ち合わせを行っている。	今後も引き続き行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			活動のマンネリ化を避けるための活動の立案を行う。また、季節感のあるイベントを開催している。	範囲を広げるなどして、児童に活動に負担を感じない程度にイベントの多様性を検討。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			利用時間や環境に応じた課題を設定し活動の支援を行っている。	個別指導以外の集団活動SST等のスキルを高めていけるようにする。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	○			環境の設定はしているが、集団活動に参加できない子の個別の対応を充実させていく必要がある。	集団に参加できない児童の個別活動の計画をより充実させていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援前に来所児童の把握と支援内容の確認、役割分担を行う。	職員で仕事や支援に対しての共通認識を高めていくため会議をより充実させていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			個別の支援記録をもって職員内での共有を行う。必要がある児童に関してはその日のうちに支援後の振り返りを行っている。	今後も引き続き行っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			最低月に一回は支援会議を持ち支援の改善を常に心がけている。	現ケースだけでなく想定される事例も話し合い支援会議の質の向上に努める。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			最低半年に一回は保護者と本人にモニタリングを行い、支援計画の見直しを行う。必要があれば課題の変更を行っている。	保護者からの希望や必要性がある場合は期間に関係なく支援計画の見直しを行っていく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○			自立支援と日常生活の支援以外にも創作活動や地域交流、余暇の提供を組み合わせる支援を行っている。	地域交流が少ないので今後増やしていくことを検討する。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議に参加する際は、児童発達支援管理責任者と一緒に児童と関わりが多い職員が参加している。	今後も担当者会議は児童発達管理責任者と関わりが多い指導員での参加に勤めていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		利用児童がいる学校からは学期の初めに行事予定表時間割を受け取り、連絡調整についても細かく連携をとりながら行っている。	必要がある児童については、事業所から積極的に調整を行い会議や情報の共有を行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在医療ケアが必要な児童がいない。	現在医療ケアが必要な児童の利用がない為、主治医との連携はないが、今後受け入れがあれば体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	事業所のみでの情報提供にならないよう、相談員に協力を依頼して情報の共有に努める。	高学年の児童が多くこれまでは就学前の事業所との連携はないが、今後共有が必要なケースがあるため、連携していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	事業所のみでの情報提供にならないよう、相談員に協力を依頼して情報の共有に努める。	これまで卒業した児童がいない為このようなケースはないが、今後情報を提供する必要があると考えている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達センターが行う研修に参加している。	今後必要があれば連携して支援に取り組みたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	地域施設の利用を通して地域で過ごす児童との交流がある。	児童クラブとの交流の機会を作ることを検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		地域で開催されている協議会へ可能な限り参加している。	児童デイ主体の協議会も開催していきたいと考えている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳、電話、メール、LINE、など、保護者が連絡しやすい体制をとり細やかに申し送り、連絡のやり取りを心がけている。	今後も引き続き行っていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		個別での助言しか行っていない為、家族向けの勉強会なども開催していきたい。	ペアレントトレーニングのための勉強会などを行っていく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧に説明を行い、質問などがあれば回答する体制を整えている。	今後も引き続き行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		児童への関わりや家庭での相談に応じて、一緒に考え助言を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		定期的に家族会を開催し保護者どうしの情報共有の機会を設けている。	保護者同士で情報共有できる他のコンテンツも用意することを検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○	苦情の対応マニュアルを作成、保護者に苦情の窓口を伝え苦情があった場合にしかるべき対応ができるよう備えている。	今後も引き続き行っていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		行事予定表を毎月配布。活動内容などをホームページ等で発信している。	ホームページを見ない保護者もいるため、会報を発行することを検討している。
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付きのキャビネットで個人情報書類を保管。全PCにセキュリティソフトをインストールしている。	今後も引き続き行っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		児童に対してはイラストを使う等、保護者も理解ができるよう口頭や文章での説明を配慮している。	今後も引き続き行っていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		事業所の行事で地域が参加できるものはないが、地域行事への参加など地域と関わっている。	地域の方が参加できる行事を検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを作成し緊急時の対策に取り組んでいる。	作成したマニュアルの周知を保護者へ行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に避難訓練を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に虐待防止研修を行っている。	職員が虐待防止を考える機会を増やしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	身体拘束が想定される児童がいないため、現在計画書への記載はない。	身体拘束が想定される児童に対しては支援計画にも記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	現在の利用児童にアレルギーのある子はいない。	アレルギー持ちの児童が通所する場合医師の指示に基づく対応をする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	実際に起こったケースや、想定される事例をもとに会議で共有を行なっている。	今後も引き続き行っていく。